

ウイング

2016.3 NO.4

市の目指す男女共同参画社会の将来像

『輝いて 自分らしく生きられるまち 鹿嶋』

みなさんに伝えたいこと、それは、「男女共同参画が進んだ社会は、誰にとっても生きやすい社会」ということです。

鹿嶋市では、第2次男女共同参画計画において、市の目指す男女共同参画社会を次のように定義しました。

- ◆ 誰もが社会の対等なパートナーとして責任を分かち合い、お互いを思いやり協力し合いながら、個性と持てる能力を十分に発揮し、自分らしい生き方が選択できる社会
- ◆ 市民一人ひとりが社会の一員としてまちづくりに参加し、多様性に富んだ豊かで活力あふれる社会

「輝いて」には、たとえ、さまざまな生きづらさや困難を抱えた人であっても、周囲のサポートを受けながら、「誰もが」その人の幸せの価値観の中で輝ける、そういう社会を目指したいとの思いが込められています。

— 記事内容 —

- キラキラ人探究！
・・・ 渡部 輝江さん（デイサービスセンターぷらっと 看護師）
- 「鹿嶋市男女共同参画フォーラム2015」開催報告
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス：WLB）をめぐる誤解
- ～平成28年3月に第2次鹿嶋市男女共同参画計画を策定しました～
男女共同参画をめぐる状況と市民意識調査報告

編集
・
発行

平成28年3月25日
鹿嶋市男女共同参画推進委員会
鹿嶋市市民生活部市民活動支援課女性支援室
〒314-8655 鹿嶋市大字平井1187番地1
Tel:0299-82-2911 Fax:0299-82-2915
E-mail:joseisien1@city.ibaraki-kashima.lg.jp

紙名「ウイング」は、誰もが夢を持ち未来へ羽ばたける社会へという思いが込められています。



鹿嶋市男女共同参画推進
シンボルマーク

み〜つけた！

キラキラ人 探究！

「キラキラ人探究！」では、男女共同参画を実践され、イキイキと輝いている皆さんの秘訣を紹介します。

今回は、『通所介護施設 デイサービスセンターぷらっと』で看護師として活躍する渡部 輝江さんにお話をうかがいました。



◆ 渡部 輝江さん（デイサービスセンターぷらっと 看護師）



▲笑顔がステキな渡部さん

茨城県水戸市出身の渡部さん、病院のヘルパーをしていた母の勧めもあって、看護師の専門学校へ進学。専門学校卒業後は、病棟の看護師、外来の看護師を経て、結婚、妊娠を機に鹿嶋市へ移住。子育てが落ち着き、現在の職場、「デイサービスセンターぷらっと」に復職。インタビュー当時は、3人目のお子さんを妊娠中で、職場で活躍されていましたが、その後無事に出産され、産前・産後休業を取得中です。

さて、渡部さんのお仕事ですが、主にデイサービス利用者の状態の確認、入浴後のバイタルの確認や服薬の管理、更衣・排泄介助を担当しています。現在の仕事について「利用者の皆さんと話したりふれあったりすることはとても楽しいです。一人ひとりと深く関わることができ、仕事は忙しいこともありますが、大変さを感じることはありません。誰かの役に立っている、それがやりがいにつながっています」と話してくれました。

同席した（株）パソナライフケア鹿嶋ケアサービスグループグループ長の山口さんは「渡部さんは、看護業務だけにとどまらず、介護業務も担いながら、利用者さんをトータル的に見てくれています。仕事ぶりは丁寧で、責任感も強く、頼もしい存在。女性が多い職場なので皆で協力しあって調整してシフトを組んでいます。それでも調整がつかない時は、子連れ出勤してもらうことも。旦那さんの理解があってこそと、感謝しています。産休・育児休業から復帰したら、仕事と家庭を上手に両立してもらって、後輩を育ててほしいと期待しています」と話してくれました。



▲職場の皆さんと(右から3番目)

そんな渡部さんの夫 政夫さんも、水戸市内の病院で看護師の仕事をしています。お目にかかることはできませんでしたが、手紙でのインタビューに答えてくれました。看護師を目指した理由は？との問いに、介護士の資格を取得し、介護の仕事をしていく中で、看護師を目指したいと思うようになったとのこと。現在の職場における男性看護師は、以前は一人だけだったそうですが、少しずつ増えて、リハビリやヘルパーを合わせるとだいぶ男性の数も増えてきたとのことでした。看護師は、まだまだ女性が多い職場ですが、女性の中で仕事をする事のやりづらさなどは感じたことはないそうで、仕事よりも通勤時間が長いことが大変と答えてくれました。

そんなお二人の家庭での様子をうかがったところ、お互いに仕事をしているので、洗濯や食事の用意など協力し合っていますとのこと、また、近くに両親がお住まいとのことで、お子さんの学童保育のお迎えなどに協力していただけるため、大変心強く、子どもたちにとっても安心につながっていますと話してくれました。

最後に、看護師として、女性として働き続けることについて、渡部さんからメッセージをいただきました。「私も子どもが生まれるまでは、夜勤もこなし、バリバリと働きたいと思っていました。子どもが生まれ、働き方、働く場は変わりましたが、現在の職場は、子どもを産みながら仕事をしている人も多く、活気があり、お互い様の気持ちで気持ちよく休みの融通もきかせてもらっています。看護師は人手不足と言われますが、資格を持っていても生かしていない人もいます。看護師の資格が生かせる職場を広い視野で見てもよいと思います。同じ仕事をしながらも、子どものお迎えの時間に合わせられず、パートを選択している女性もいます。女性が、常勤であたり前のように働ける職場がもっともっと増えていってくれることを願っています」と力強く答えてくれました。

渡部さんご夫妻の今後の更なるご活躍を期待しております。

◇◆◇ 鹿嶋市男女共同参画フォーラム2015を開催しました ◇◆◇

平成27年12月12日(土)、大野ふれあいセンター多目的ホールにおいて、講師に藻谷 浩介(もたに こうすけ)さんをお招きし、「地域活性化のカギ、男女共同参画～今 私たちができること～」をテーマにお話いただきました。

女性が働くと、出生率は下がるでしょうか？

実は、出産適齢期の女性が働いていない地域の方が、出生率が低い傾向にあるそうです。そんな投げかけから、前半は、事実とイメージは異なっていることがあるということをもとに具体的なデータを用いて話されました。

後半は鹿嶋市の人口の状況等にふれ、地域活性化のカギは、女性の就労促進、女性経営者を増やすこと、性別年齢を問わない地域の人材力を総結集させること、そのためには、男女共同参画が進むことが必要と話し、一人ひとりが身近な人の役に立ち、愛され、惜しまれる人になりましようかと結びました。

また、当日は、さまざまな分野で活躍する市民団体の皆さんの日ごろの活動をパネルで展示し紹介しました。




▲ 開催アトラクション かしま少年少女合唱団「虹Kids」によるミニコンサート



▲ 日本総合研究所調査部 主席研究員 藻谷 浩介さん

◇◆◇ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス:WLB)をめぐる誤解 ◇◆◇

≫≫ WLBは、子育て中の女性を優遇するもので、独身者や男性には関係ない？ 

いいえ、すべての働く人のためのものです。ワークとライフのバランスは、人生の段階に応じて変わります。また、個人の事情や希望によってもそのバランスは様々です。

男性も女性も、老いも若きも、子育てや介護、地域活動、自己啓発など、一人ひとりが望むワークとライフのバランスを実現することです。それらが実現していくと、職場における子育てや介護支援制度も活用しやすくなることにつながります。

≫≫ WLBは、「労働時間の短縮」や「ほどほどの働き方」を推奨するもの？ 

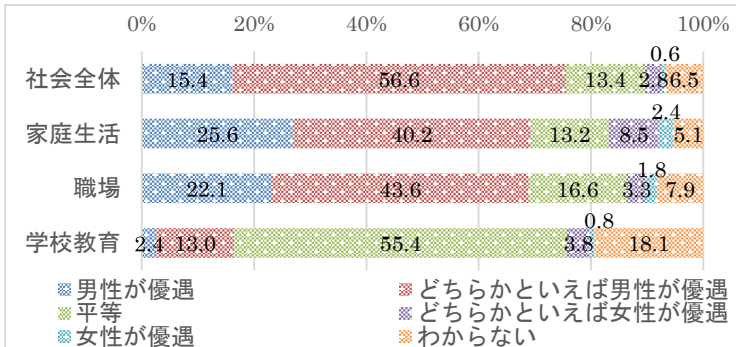
いいえ、仕事のあり方や業務改善により仕事の効率が高まることを目指すもので、企業にとっては、生産性の向上につながるのと同時に、働く人にとっては、その他の生活が充実し、その充実により得られた多様な経験は、仕事に対する意欲や創造性を高めるなど、さらなる仕事の充実にもつながっていくといった好循環が期待されています。

～ 平成28年3月に第2次鹿嶋市男女共同参画計画を策定しました ～

本号では、市の男女共同参画を取り巻く状況と計画策定の基礎資料とするため平成27年6月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の内容を報告いたします。

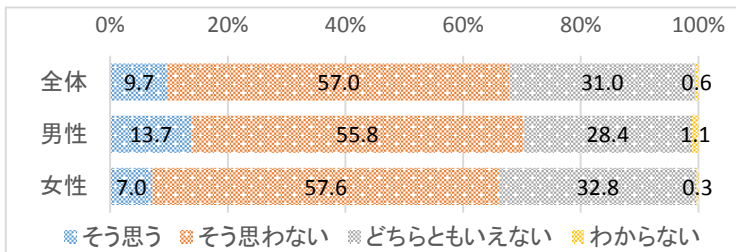
◆ 男女共同参画に関する意識

《男女の地位の平等感》



男女の地位について、「社会全体」では72.0%、「家庭生活」では65.8%、「職場」においては65.7%が「男性が優遇されている」と考えています。平成15年調査の同様の項目では「家庭生活」において61.7%、「職場」においては、62.3%が差別を感じるとの結果で、10年以上が経過してもなお変化していません。学校教育分野においては、55.4%が平等と考えており、多くの女性が就職など学校を卒業後に不平等な現実直面しています。

《固定的な性別役割分担意識（男性は外で働き、女性は家庭を守るべき）》



固定的な性別役割分担意識については、概ね1割の方が「そう思う」と答え、男女では、男性がわずかに上回っています。また、男女ともに概ね6割の方が「そう思わない」と答えています。意識としては、これまでの男性、女性の固定的な役割にとられることはないと考えているようです。

◆ 政策・方針決定過程への女性の参画

本市の女性は、市の人口のおよそ半数、労働力人口の4割弱を占めており、地域社会のあらゆる分野において社会活動し、様々な役割を担っています。しかしながら、あらゆる分野において政策・方針決定過程における女性の参画状況は、男性に比べ依然として低い状況です。

《政策・方針決定過程における女性の参画状況》

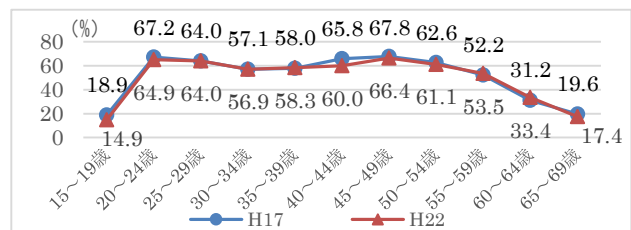
市審議会等	30.1%
市行政委員会等	7.9%
市議会議員	18.0%
地区まちづくり委員会役員 (うち 委員長・副委員長)	22.8% (0%・13.6%)
自治会における会長	2.0%
鹿嶋市一般行政職 (課長相当職以上)	6.3%

◆ 就業の分野における男女共同参画

市の女性の年齢階級別労働力率をみると、依然として結婚・出産・子育てを機に就労を中断する傾向が見られ、30代前半を底に緩やかなM字を描いています。

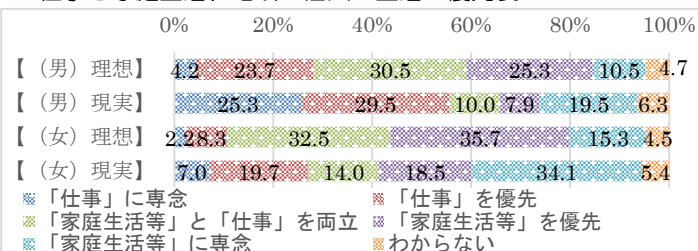
また、茨城県における女性の年齢階級別雇用形態は、20代前半で一度正規雇用につくものの、30代前半から正規雇用者が減少し、一方でパートやアルバイトなどの非正規雇用の働き方を選択する傾向があります。年々共働き世帯数も増加しています。

《市の女性の年齢階級別労働力率》



◆ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をめぐる状況

《仕事と家庭生活、地域・個人の生活の優先度》



仕事と家庭生活等の優先度をみると、理想よりも男性は仕事、女性は家庭生活等を優先させています。

◇ 編集後記 ◇

別れと出会いの季節、いつでもどこでも、誰もが“男だから・女だから”ではなく、一人ひとりがお互いを尊重し、支え合える社会環境づくりの実現が求められています。推進委員会では、男女共同参画社会の実現に向け、今後も取り組みを進めてまいります。市民の皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。(I・E)

※計画本編につきましては、市役所市民活動支援課女性支援室等で閲覧できるほか、各地区行政委員を通じて概要版の配布を予定していますのでご確認ください。